

中級レベルにおける会話授業

会田久子

キーワード： 中級学習者 アンケート 自己関与 自由な会話 気づき

1. はじめに

全学の学部留学生以外の留学生を対象とした平成12年度秋期日本語コースは、平成12年10月15日より、15週にわたって開かれた。このコースはレベル1, 2, 3, 4の4レベルに分けられたが、これは、レベル2のうち「話すこと」という技能のレベルアップを主眼としたクラスで、週に1回、全15回のうち6回にわたって行われた「アンケートの結果を読む」というテーマでの授業実践報告である。授業実践報告をすることにより、その成果と問題点を見極め、今後の課題としたい。

2. 目的

アンケートをすることで、教室外での生の日本語に触れると同時に他者の多様な価値観を認識すること。アンケートの結果を使って教室内で意見交換し、その活動の中で新しい語彙や表現を学習すること。そしてディスカッションの仕方を学ぶこと。

3. 学習者の背景

学習者は研究生、大学院生、教員、日韓プログラムの学生、予備教育生の計18名。国籍別では中国7名、ロシア3名、イギリス2名、マレーシア1名、韓国5名、男女別では女性8名、男性10名である。

4. 目標

初級の会話では相手や場面や機能などに応じた定型化された表現練習が多い。それはこのレベルでは当然のことであるが、日本語力が伸びてきた中級レベルの学習者に対してそれだけでいいのだろうか。机上の知識で終わらせることなく、獲得した日本語を現実の言語生活に近づけるための授業活動はどのようにしたらよいか。そのための方法として、プロジェクトワーク、ロールプレイ、シミュレーション、タスク、ゲームなどさまざまなものがあるが、今回は教室外でアンケートを取りその結果に対して意見交換をするという教室活動を試みた。自由に自分の考えを言う場の中で、学習した表現を使ってみたり、その発言の真意がよりの確に表現できるいい方はなんだろうと考え、直したりすることも有用ではないか。また自由な意見交換の場でこそ個人のレベルではないお互いに学び合えるインターアクションがうまく機能し、学習者の日本語運用力が伸びるのではないだろうか。その前提として、アンケートを取ることで、教室内の日本語を離れ教室外で現実の日本語を体験することを試みた。つまり、積極的に自己関与できるクラス活動である。一方では、この活動を通して日本語で会話することを理屈抜きで楽しんでほしいということもあった。

5. 授業内容

5-1 アンケート実施前の授業内容

- a 実際のアンケート調査をするための準備として、アンケートをする際に必要な表現練習、また、その際アンケート対象者が見せるノンバーバルな面も観察し判断する方法を学習。
- b 今回のテーマである「アンケートの結果を読む」ために必要な表現。たとえば、割合のいい方、その割合の数値を推測するいい方などの練習。そしてなぜそう思ったか、その理由や根拠を言う言い方の練習。
- c 発表者が自分で行ったアンケート調査の結果、数値を他の学習者に推測させる時の表現方法。そしてその答えの当否を言い、その数値の違いの大きさを適切に表現する方法の練習。
- d 話を切り出す時や他者に反論する時に使う表現など討論に必要な表現の練習。
- e a・b・c・dで練習したことを使い、教師が準備したテーマと結果を基に模擬練習。

5-2 アンケートのテーマと対象者

5-1の通り事前練習した後、以下のようなテーマにしたがってアンケートが教室外で実施され、それに基づいて授業が進められた。アンケートは「そう思う」「そう思わない」「わからない」の三通りの答えが出てくるものとし、できれば、「わからない」という答えが多く出るであろうと思われるテーマをよしとした。推測の根拠に対するイメージが膨らむことにより意見交換の際に多様な考えが出、活発な授業活動がなされることを期待したからである。

アンケートのテーマ、対象者は以下の通りである。対象人数は1番から15番までは10人、16番は20人、実際にアンケート調査をし、発表した学生数は18人中16人である。

[テーマ]	[対象者]
1 ガングロはきれいだと思いますか。	若者
2 科学が進歩すればするほど人間は幸福になれると思いますか。	特定なし
3 日本語の勉強は英語の勉強より重要だと思いますか。	外国人
4 東京の生活は新潟の生活よりいいと思いますか。	日本人学生
5 日本料理が食べられますか。	外国人
6 日本が好きですか。	外国人
7 子供は多ければ多いほどいいと思いますか。	独身の人
8 女性は髪が長いほうがいいと思いますか。	若い男性
9 結婚相手は金持ちが一番いいと思いますか。	若い女性
10 漢字の数は少なければ少ないほどいいと思いますか。	外国人
11 キムチが好きですか。	日本人
12 結婚相手は男性の方が年上がいいと思いますか。	20代の日本人女性

- | | | |
|----|---|-------|
| 13 | ダイエットをしている女の人は好きですか。 | 男性 |
| 14 | 日本人は金持ちだと思いますか。 | 外国人 |
| 15 | 納豆が好きですか。 | 特定なし |
| 16 | 若者の就職に対する価値観
-卒業してから定年までずっと同じ組織で
働きたいですか- | 日本人学生 |

5-3 教室活動

司会、進行は発表者自身が行い、教師は黒子に徹した。

各テーマ毎にそれぞれ活発に授業が進んだが、そのうちNo. 10、13、16の内容を紹介する。

No.10 「漢字の数は少なければ少ないほどいいと思いますか。」

実施者 : ロシア人留学生 (研究生)

対象者 : 漢字を使わない言語の国の日本語力が高い留学生

*客観的な結果を得るために

対象人数 : 10人

結果	： 「そう思う」	2人
	「そう思わない」	8人
	「わからない」	0人

結果を推測する場面では予想外の結果だったのか、サンプル数が10と少ないにもかかわらず、正しい答えがなかなか出なかったため、司会者として討論を進行させていく表現はもちろんのこと、あらかじめ練習しておいた数値を推測する際に使う「ちょっと/すこし少ない(多い)、ずっと少ない(多い)、惜しい、もうちょっと」等の表現を発表者が十分に使えた。また、回答者側も推測が困難になり、「勘です」といった(これもあらかじめ練習しておいた表現)表現等を使うことができ、活発に討論が進行した。結果については、前述のように予想外だったようで、全員驚きの声を上げていた。

【結果に対する推測】

・「そう思う」

1. 漢字はすごく難しいけれど、少し漢字を勉強すれば漢字はとても便利だということがわかるから。
2. ひらがなだけでは読みにくいから。
3. 漢字を覚えた人にとっては、言葉を見てすぐ意味がわかるから。
4. 韓国人にとっては、日本と読み方が同じものがたくさんあるので、漢字がたくさんあったほうがいい。

・「そう思わない」

5. ひらがなのほうが意味を調べる時簡単だから

クラス内での調査でも同じような結果比率が出た。初めは結果を見てびっくりしたものの、対象者を日本語力が高い人としたことで、このような結果が出たのだと納得した。そして、日本語力によって回答が違ってくるのではないかと、漢字を使わない国の留学生といっても、国や地域によって違うかもしれないなどアンケートの取り方にまで言及する学生も出て、アンケートの内容と同時に、アンケートの方法論にまで話が進んだ。アンケートの内容が正確にわからなければ正確な答えが出ないと思って日本語力の高い人としたが、深くみるためには日本語力のさまざまなレベルの人に対してアンケートを取ったほうがおもしろかったのではないかと結論が導き出された。

No. 13 「ダイエットをしている女の人は好きですか。」

実施者 : 韓国人留学生 (日韓プログラム生)

対象者 : 若い男性

対象人数 : 留学生 5 人、日本人学生 5 人

結果 : 「はい」 0 人

「いいえ」 9 人

「わからない」 1 人

この結果についても、No.10同様、驚きの声が上がった。特に女性からの反応が強く出た。一般的に現代の風潮は痩せている人指向になっているかに見えるため、女性はみな痩せたい、男性は女性に対して痩せて欲しいと思っているようにとられがちであり、学生たちもそう思いこんでいた。しかし実際はどうであろうか。このアンケートでは90%の男性が痩せ過ぎの女性は好きじゃないと答えた。(この場合のダイエットは医学上必要なダイエットではない。)

【結果についての推測理由】

1. 健康によくないから。
2. 痩せ過ぎは美しくないから。

クラス内でも同様のアンケートがなされた。

【クラス内での調査】

対象者数 : 12 人 (韓国 5 名、マレーシア 1 名、ロシア 1 名、イギリス 1 名
中国 4 名)

結果 : 「はい」 0 人

「いいえ」 8 人

「わからない」 4 人

理由

1. 痩せている人はとにかく好きじゃないから。
2. 自分は食べるのが好きなので、デートをしたとき相手の女性が食べないのはつまらないし、また自分も食べにくいから。
3. 健康に良くないから。

などが出された。

また、日本のテレビや雑誌などに出ている女の人のほとんどが痩せているので、その悪い影響がある。女性は男性の表面的な反応を見すぎるのではないか、などの意見も出され、そのことから女性の生き方あり方にも話しが進んだ。「デートをするだけの女性なら痩せているほうがいいかな。」といった冗談も出、女性のひんしゆくをかったりしたが、クラス内は喧々囂々の中にも楽しく会話が進んだ。

No.16 「若者の就職に対する価値観」

－ 卒業してから定年までずっと同じ組織で働きたいですか－

実施者 : イギリス人教師

対象者 : 新潟大学の1年生 (日本人)

対象人数 : 20人 (男性10人、女性10人)

結果 : 「そう思う」 4人

「そう思わない」 5人

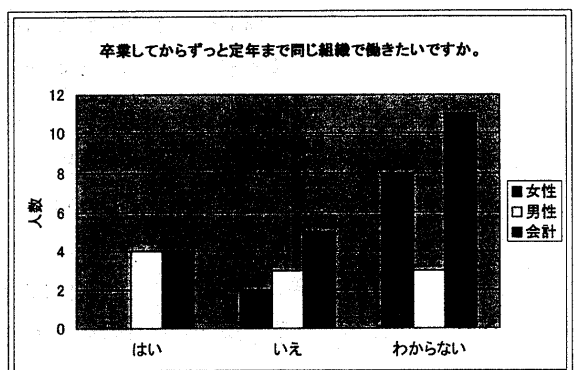
「わからない」 11人

この実施者は、対象者を20人と増やし、かつ対象者を学部別、男女別に数値を取り、図も提示しながら、この活動を進めた。右図参照。この資料により意見交換にも深みが出、活発に授業が進んだ。結果については、これもまた予想外のことが多かったようである。

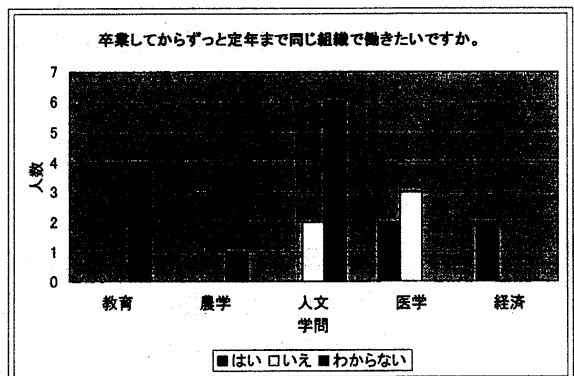
【結果に対する感想・推測】

1. 教育人間科学部の全てが「いいえ」なのは、教育人間科学部を卒業してもせんせいになれないからか。
2. 経済学部の学生に安定志向が強いのがわからない。
3. 人文学部の学生に分からないが多かったのは、歴史や文学を学んでもそれが仕事に直接活かさないからではないか。
4. 学部によって違うのが面白い。
5. 医学部の学生に「いいえ」が多かったのは不思議だ。
6. 実学ではない学生は専門性が活かせる場所が少ないので、安定性を望むと思ったから。
7. 国家公務員や地方公務員、大企業に入った男性はずっとその組織に残ると思うから。
8. 人文学部の対象者は全員女性だったので、仕事に対する考えが弱いかもしれない。

1.



2.



この結果を受けてクラス内でもアンケートを取り、両方の結果を見ながら意見交換をした。

【クラス内でのアンケート】

テーマ : あなたは公務員や終身雇用など安定した職業がいいですか。

対象人数 : 12名 (国籍 : 韓国5名、マレーシア1名、ロシア1名、イギリス1名、中国4名)

結果 : 「はい」 1名
「いいえ」 10名
「わからない」 1名

- 理由
1. 安定感より挑戦するほうがいい。
 2. 終身雇用は年功序列を含んでいるのでよくない。自分の能力を発揮する場がほしい。(年をとってからはきついかもしれないが。笑い。)

【教室外でのアンケート対象者の理由】

・「はい」

1. よい職場だったら無理に変えなくてもいい。
2. 家族と一緒に一定の場で暮らしたい。
3. 自分の興味のある仕事につくつもりだから。
4. 自分の決めた組織で成功を目指し、精一杯努力することこそすばらしいと思うから。

・「いいえ」

1. 常に新しいことに挑戦したい。
2. 同じ組織なのはいいが、ずっと同じ職場はいやだ。

・「わからない」

1. チャンスがあればよりよい仕事をしたいから。
2. 自分に合う仕事ならずと続けたいが、そうでないときは難しい。
3. 組織とかに加わりたくない。
4. まだやりたいこともよくわかってないし、先のことなので。
5. なるべく定年までずっと同じ職場で働きたいが、人間関係や待遇によっては考えるかもしれない。

アンケート対象者の考えと学生の考え、推測を照らし合わせて活発な意見交換がなされた。学習者は、強い目的を持って将来のためにと勉学に励んでいる留学生であるから、安定志向ではなく、チャレンジ精神が旺盛であることは容易に想像できるが、そのかれらにしても、「わからない」が多かったこと、そして「はい」が少なかったことには驚いていた。それぞれの答の理由について、なお考えてみた。

・「わからない」

- ①日本では今まで終身雇用制度がふつうであったのに、新聞などの記事では、それが崩れていると言われている、また経済状況から終身雇用は崩れていると思っている。若者はその影響を受けているのではないか。しかし、まだまだこの制度は生きている。メディアはもっと現実を学んで伝えるべきだ。

- ②対象者が1年生なのでまだ現実感がなかったからかもしれない、などの意見が出された。
 ・「はい」
 ①地方の国立大学の学生は公務員になる人が多いから。
 ②地方で働く会社員も今の日本の社会状況、経済状況から転職指向がないと思う。
 クラス内では、安定感より、自己実現を望むと答えた人が圧倒的に多かった。

6 まとめ

6-1 授業活動に対する学生の評価

授業終了後、今回の授業活動についてのアンケートを行なった。1～5のスケールで1を「いいえ」あるいは「ぜんぜん」、5を「はい」あるいは「とても」とし、「どちらでもない」をニュートラルの3とした。（回答者数：9名）

	1	2	3	4	5
1. アンケートをするとき日本語が使えた。	0	0	1	6	2
2. アンケートをするとき相手の日本語が分かった。	0	0	1	6	2
3. アンケートをする前に自分で練習した。	1	3	4	0	1
4. アンケートをしているとき分からない言葉があったので、すぐ聞き返した。	0	1	2	3	2
5. アンケートをしているとき分からない表現があったので、すぐ聞き返した。	1	0	3	2	2
6. アンケートのあとで分からなかった言葉を自分で調べた。	2	1	3	2	0
7. アンケートのあとで分からなかった言葉を友人などに聞いた。	1	0	0	5	1
8. アンケートのあとで分からなかった表現を自分で調べた。	2	4	0	1	0
9. アンケートのあとで分からなかった表現を友人などに聞いた。	1	1	0	4	1
10. アンケートをすることを楽しんだ。	0	2	5	1	1
11. 発表、意見交換など、クラス内での自由な会話を楽しんだ。	0	1	1	5	2
12. アンケート活動で新しい言葉を覚えた。	1	1	1	5	1
13. アンケート活動で新しい表現を覚えた。	1	2	3	2	1
14. クラス内での意見交換等から新しい言葉を覚えた。	0	0	0	7	2
15. クラス内での意見交換等から新しい表現を覚えた。	0	1	1	6	1
16. この授業活動で教師から新しい言葉、表現などを学んだ。	0	0	0	6	3
17. クラス内での意見交換を楽しんだ。	0	0	3	4	2
18. 他の学生の前に出て、発表したり司会をするなど一人で話すことが嫌だった。	1	0	6	2	0
19. 自分の意見が考えていた通りに言えた。	1	1	3	3	1

20. 今回の授業活動は日本語の向上に役立った。 0 0 2 7 0
 21. 今回の授業形式はおもしろかった。 0 0 1 5 3

(4～9については、分からない日本語がなかった人は回答不要)

アンケートの際、日本語の使用、理解に困った人はほとんどいなかった。これはアンケートのテーマ設定において、難しい内容にはしなかったこと、回答を「そう思う」「そう思わない」「わからない」の3種に限ったことによるからだと思うが、それでも、アンケート対象者が使う日本語が時折理解できなかつたことが分かる。では、そのときどうしたか。「すぐに相手に聞き返す」と「あとで友人などに聞く」が「自分で調べる」よりずっと多かった。これはやはり、言葉というものは場や状況の中で生きているからで、辞書やテキスト上だけでは真の意味や用法を理解することが難しく、現実の状況の中で生身の人間から得るものの価値を必然的に知っているからだろう。言語習得において、この社会的戦略が果たす役割は大きい。アンケートをすることを楽しんだ学生は残念ながら少なかった(やはり不特定の人に話しかけるのは大変なことかもしれない)が、多くの学生が教室内での意見交換を楽しんだ、と同時に新しい言葉や新しい表現を学んだと回答した。アンケート時に学ぶより、教室内でのインターアクションで多くのことを学んだようだ。これはアンケートを取ることでより討論に重点を置いた活動だったので、当然の結果であるかもしれない。総じて、今回のクラス活動に対する学生の評価は高かった。

6-2 まとめと今後の課題

この活動は、学生それぞれが持つ考えの良し悪し、当否を問う活動ではなく、今までに習得した知識を操作、駆使して発話する能力を養うことそして新しい言葉や表現を習得することが目標であった。始めは、アンケートをしっかりと取ってくることが出来るだろうか、意見交換がどのくらい活発にできるだろうか、そして、会話のクラスとしては18名と大人数であることから、学生全員にこの活動をうまくまわすことができるだろうか、などの不安材料があった。しかし、その不安は見事にかき消され活発に議論がなされた。多様な背景を持った学習者が存在しているクラスではその多様性がクラス活動を阻害する要因を持っている可能性がある。しかし反対に、中級クラスでその多様性を活かし、異なる視点を持つ学習者間で意見を述べ合うことは、自分とは異なる他者が存在することに気づくことであり、その中で自分の真意を伝えるための方策を模索することでもある。ステレオタイプの見方ではなく、真の異文化理解、多文化理解の一步となるだろう。学生は日本の社会状況を実に良く関心を持って見ている。

テーマと対象者は学生が自由に決め、対象人数は負担の軽減のために10人と決めた。テーマは特に深く考えることもなく決められたものもあったが、回がすすむにつれて、あまりよくなかつたとの思いを抱きテーマを変えたり対象者を変える学生も出、内省し、評価する傾向が見られてきた。これは初めは消極的だったのが、他の学生が選んだテーマや方法の違いを見て、もっとよくやりたいと積極的な姿勢に変わっていったものと思われる。また対象者についても、意見交換の中から、男性と女性を分けたほうがよかった、年齢別が良かった、国に偏りがあったのもっといろいろな国の人に聞けばよかった、外国人と日本人を対比したらもっとおもしろい結果が出たかもしれない、対象者の日本語レベルが

偏りすぎたかもしれないなど、回を追うごとに学生の意識が高くなり、発表の内容がしつかりとしたものになっていった。これは、もちろん発表者となった学生の意欲と努力によるのは当然であるが、他学生とのやり取りの中で習得していったものが多いと考えられる。学生は自分自身の中に蓄積してきた日本語を想像以上に駆使して、創造的に課題に取り組んでいった。そして、回答者側となった学生も、他の学生の発言を受けてそれを契機になおプラス α の力を得て発言できたのではないかと考えられる。相乗効果がいい意味で機能した。テーマについても、初め、面白いとだけ思ったテーマが、実際にアンケートを取ってみると、ことのほか難しいテーマであったり、答えにくいテーマであったことに気づくことがあった。例えば、「No.6日本が好きですか。」これに対して、どう答えていいかわからない。何について聞いているのかわからない。具体的な質問でないと答えにくいなどの意見が出た。最後には「国」という時、それは何を指しているのだろうかといった意見が出て、思いもかけない問題の深さに考え込んでしまう場面もみられた。また、「No.7子供は多ければ多いほどいいと思いますか。」というテーマも、一見個人的な問題のように見えるが、国の施策、男と女の役割、社会環境などさまざまな問題が内包されていることを討論の中で気づいていった。自分が欲している回答を得るためにはどのように表現したらいいのか、どのように聞いたらいいのかなどにも考えが及んだ。また、討論の仕方、意見の述べ方なども事前学習したことを実際のやり取りの中で体験した。しかし、婉曲的な反論の仕方を使うことはなかなか難しかったようだ。ストレートに反論する学生が多数見られ、表現定着の効果は残念ながらあまり見られなかった。文法や語彙の選択については、例えば、初級段階では「～たい」は話者が自分にのみ使い、第二・三者には「～たがっている」を使うと学習する。したがって、発表者の学生は「学生は安定した仕事をほしがっている。」と言ったが、このような発表の場や話題によっては、ある事柄や状態を表す名詞、意思的な行為の動詞を立ててそれが実現することを望む「欲する」を使って「学生は安定した仕事を欲している。」や「学生は安定した職業につきたいと思っている。」という表現の方が適切であろう。学習者の日本語レベルに合った表現や語彙、日本語を使う場での表現や語彙の選択は、やはりあらかじめ設定された定型化した活動の中だけでは学習しきれない。

学生はこの活動を通して、会話力を伸ばすことを目指したわけだが、同時にアンケートの効果的な取り方にも考えの範囲をふくらませることができ二次的な効果もうまれた。学生の負担を軽くするために対象者を10人（ひとつは20人）としたが、この数では当然アンケートとして成り立つものではなく、結果についても信頼性はない。しかし、今回のクラス活動を通して、アンケートなどのデータは取り方によって変わるので、必ずしも正しい結果を導かないという見方もできた。

会話を中心としたクラスではその評価をすることが難しい。今回は教師が手作業でモニターし、1回ごとに問題点はどこか、どのように改善したらよいかなどをアドバイスする形でフィードバックしたが、テープやビデオを使って記録し、それを再生しチェックしフィードバックしたほうが、ポイントがはっきりしてよかったかもしれない。しかし、テープやビデオを使うことを嫌う学生、そのことにより自分の意見が言いにくくなり発話量が減る学生も現にいる。また、多人数のクラスにおいて、ひとりひとりに機器を利用してフィードバックをしていくのはよいと分かっているにもかかわらず時間がかりすぎる。また、事前に学

習ポイントについて学習していても、自由な会話が始めると活発であればあるほどその導き方が難しい。効果的なコントロールの仕方とフィードバックの仕方が今後の課題である。

参考テキスト： 日本語会話中級 I T I J 東京日本語研修所

参考図書 : 森田良行「基礎日本語辞典」 角川書店
倉八順子「プロジェクトワークが学習者の学習意欲及び学習者の意識
態度に及ぼす効果(1) — 一般化のための探索的調査 — 日本語教育
80号
バルタン田中幸子他「コミュニケーション重視の学習活動 I プロジェ
クトワーク」 凡人社

**Intermediate conversation class
using questionnaires and its results**

Hisako Aida

This class is designed for students of intermediate Japanese. The purpose of this class activity is to practice every-day Japanese by giving a questionnaire. By doing this, students can have the experience of talking with various people and take notice of other people's various viewpoints. Using the results from the questionnaires, we will discuss them with other students, and in the process, learn new words and new expressions. We will aim at achieving proficiency in spoken Japanese by actively participating in this class activity.